

中心地域整備に関する調査特別委員会（第20回）

日 時 平成29年7月12日（水）

9：00～：11：36

場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：3人）

説明員 教育課 丸山教育長、安達次長、段塚室長、榎尾主幹

農林課 久城課長

企画課 木下課長、実延専門監、島山主幹

書記 佐伯香主事、岩崎事務局長

○山本委員長 おはようございます。開会に先立ちまして、九州北部地方では想定外と言われる豪雨が発生し、多くの死者、行方不明者、住宅の被害、大規模な山崩れ等が発生をいたしました。犠牲になられたお方のご冥福と1日も早い復興をお願いしたいと思っております。それでは、只今より中心地域整備に関する調査特別委員会を開会いたします。本日は社会体育館について、先月22日奥出雲町にて行いました木造による体育館の行政調査を参考にもしながら、本町の社会体育館建築についてどのような建築方法が良いか、委員の皆さまと議論をいたしたいと思っております。そして、議会としての意見を取りまとめたいと思っております。また道の駅にちなみ日野川の郷運営状況等についての調査を予定しておりますので、宜しく願いいたします。それでは、説明をお願い致します。村上議長。

○村上委員 お手元に日南町社会体育館新設についての要望書というのがあると思いますけども、これにつきましては昨日、平田森林組合長さん、木材生産事業協同組合の西村雅文さんが来られまして、陳情扱にすれば9月定例会になろうかという話しをし、本日委員会もあるという事も申し上げまして、この資料を今日の委員会の冒頭に皆さん方に配らせていただいていたと見ていただくという事にしましたので、お手元に配布をしております。中に付けておりますものにつきましても、森林組合長さん並びに丸太組合の方から出されたものをそのまま付けておりますし、日南町の公共建築物等における木材の利用促進に関する方針というようなものも、こういったものがあつたのかなという気もしておりますけども、一緒に持ってきていただきましたので付け

ておりますのでご覧をいただきたいと思います。宜しくお願いします。

○山本委員長　この件につきまして、質問等ございますでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○山本委員長　そうしますと日程に基づきまして、まず社会体育館建築について説明をお願いいたします。丸山教育長。

○丸山教育長　改めましておはようございます。先程委員長もおっしゃいましたけども、九州北部地方では甚大な被害が発生しております。学校関係におきましても被害があったようでございます。一日も早い復興を願うところであります。併せまして、県内からも7人の協力要請があつて本町では出かけておりませんが、県からは出かけておるようでありますので報告をさせていただきたいと思います。そうしますと本日の中心地域整備に関する調査特別委員会でありますけども、先日5月22日でしたでしょうか委員会がなされまして話したところでありますけども、それからそんなに多くのところが変更になっておるわけではありません。併せまして先程委員長もおっしゃいましたように、奥出雲町等々の視察に同行をさせていただきまして、色々な情報は聞いておるところでありますけども、本日は日南町体育館、案内では社会体育館という言い方もしてありましたけども、規則条例あたりでは日南町体育館というところが示されておりますので、日南町体育館の改修工事の内容についてでありますけども、先程言いましたように、教育委員会としては冒頭申し上げた予算の状況等々について変更するところはありませんけども、設計委託等に一日も早く出していきたいと考えておるところでありますし、口頭ばかりではいけないと思いますので文章的にも色々まとめたところがあります。その部分におきまして先日の教育委員会でも話をさせていただいて協議をしてまとめたところがあります。その部分を本日は資料として出させていただいております。この以後、担当の榎尾主幹の方から要点を説明させていただきたいと思いますが、本日は併せまして全体の説明員としまして、私教育長と安達次長と段塚担当室長と榎尾主幹が同席しておりますのでよろしく願いいたします。その事業が現在4月から新年度に入ったわけでありまして、すでに7月に入っております。その時点で若干財源を予算の時にらせていただいておりますけども、その部分が変更があつておりますので、詳しい内容等々についてはまた議会本議会あたりで補正予算等々で説明をさせていただきたいと思いますが、情報として申し上げておいた方がいいと思いますので、この場を借りまして報告をしてお

きたいと思います。当初予算では緊急防災減災事業債としまして、7億170万の財源を議会に出ささせていただいて了解を得たところでありますけども、国県に申請をしておるところでありましたけども、基本この事業債は耐震補強というところを日南町は示しておりましたので、その部分で国と県と協議をしてもらったところであります。ところが全面的な改修というところが理解出来ていなかったというような状況もあって、まだまだ沢山の理由はあると思いますけども、緊急防災減災事業債には該当にならないと国が示して来られたようであります。県も了解をしておられるようでありますけども、町としましては県と相談をいたしまして、冒頭当初もそうでありましたけども、過疎対策事業債で再度協議をしておるところであります。この部分については大筋大丈夫じゃないかというところもあります。決定したところではありませんけども、そういう部分で全額それに変えるというところで財政の方が県と協議をして国とも協議をしておるところがあります。従いまして若干根本的な財源のところが変わりつつありますので、この場でご報告をさせていただきたいと思います。以後資料の説明をざっとではありますけども平成29年度予算にかかります日南町体育館改築工事につきまして説明をしますけども、スムーズにこの事業が進められますようにご理解とご支援をいただきますようによろしくお願いをしまして、冒頭の説明にさせていただきます。よろしくお願ひします。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 そうしますと私の方から本日お手元の方に配布させていただいております、日南町体育館改築工事計画概要の方を説明させていただきます。1ページをご覧ください。1番としまして事業概要の方載せております。事業概要につきましては、これまでの経過について書かせていただいております。日南町体育館につきまして、49年経過、平成21年に耐震補強して耐震性の低い結果が出ている建物というようなことを書かせていただいております。平成29年度の当初予算につきまして、現在の体育館の解体、新しい体育館への建て替えの予算を可決していただいた旨も書かせていただいております。場所につきましては先般5月21日に開催していただきましたこの特別委員会でも決定いただきました。現在の場所というような事を記載しております。2番から特記事項の方に移ります。(1)としまして整備計画に当たっての留意事項の方に移ります。アにつきましては場所について書かせていただいております。現在の場所ということで書かせていただいております。イにつきましては、現在の場所につ

きましては、関係各所に各施設の方がございます。この各居住者の生活ですとか利用者、小・中学生が各種施設を利用しながらの工事となりますので、安全確保、動線確保について気を付けていただきたい旨を書いております。ウにつきましては、構造及び非構造部材につきまして、耐震化に配慮した計画というようなことを書いております。エにつきましては、鳥取県福祉のまちづくり条例に沿った計画とする事というような内容を記載しております。(2) 工事請負費について書いております。工事請負費、解体工事も含むところで6億3,000万上限でこの計画の方を行っていききたい旨を書いております。(3) 改築後の体育館についてということで一覧にしております。名称所在敷地につきましては、現在の駐車場の部分も含めての面積2,000㎡ということで記載しております。構造につきましては、鉄骨鉄筋コンクリート造、木造、ハイブリッド構造も可能とするというような内容、いずれかでの構造を検討しております。想定面積としまして、建築面積につきましては約1,500㎡、延べ床面積としまして1,700㎡を計画したいと思っております。建物の高さにつきましては約15m。バレーボールは一番高い天井を必要としております。バレーボールにつきましては12mが下限になっておりますので、このような形での約15mという高さを計画の段階では記載しております。2ページをご覧ください。アリーナについてということで書かせていただいております。アリーナ部分につきましては、31m×38m程度ということで記載をしております。バスケットコート1面、バレーコート2面、バドミントンコート6面、テニスコート1面、卓球コート8面の競技が出来る大きさを確保する事というようなことを記載させていただいております。器具庫、更衣室、トイレ、事務室ここから下につきましては後程出て参りますのでこちらでは割愛させていただきます。(4) 構造についてということで記載させていただいております。主要となる構造については必要な耐震性強度を確保した上で鉄骨造、鉄筋コンクリート造または木造（ハイブリッド構造も可）とし、内装等については日南町産材を出来る限り使用し、構造（非構造を含む）長寿命化、経済性、意匠性の観点から構造を検討することというような形で書かせていただいております。(5) 設備についての方に移ります。アリーナについては防滑性能試験の許容範囲という事で床材を選定することというような形で書かせていただいております。2) 器具庫の方に移ります。器具庫につきましては先程2ページ上段アリーナの方で説明させていただいた競技の器具が入るようなスペースを確保する事という事で記載させていただいております。はぐっていただいて3ページをご覧ください。

更衣室につきましては、更衣室内に洗面台シャワーを設ける旨を記載させていただいております。4) トイレは男女別それぞれに多目的トイレを1ヶ所以上設ける、そして冬期間においても水道管が凍結しないような措置を講ずるといようなことを書かせていただいております。5) 事務室につきましては、電気ですとか消防各種の操作盤の設置を1ヶ所にまとめたいと思っておりますので、このような書き方をさせていただいております。6) 管理用通路に移ります。こちらの方は先般亀嵩小学校の体育館を見ていただいた時にキャットウォークがあったかと思えます。そのようなイメージで2階部分に3方向または4方向から観覧しやすいような形でのベンチを設けるなどといようなことで書かせていただいております。7番の備蓄倉庫に移ります。財源が変わりましても日南町体育館においては避難所と大人数が避難していただくことの出来る施設になろうかと思えます。その折に備蓄倉庫というのが必要になって参りますので、備蓄倉庫を想定しているものを収納出来るスペースという事で、こちらの方に記載させていただいております。8番トレーニングルームということで、20人程度が多目的に活用出来るスペースを確保することといような内容で書かせていただいております。9) 照明についての方に移ります。照明につきましては全てLED照明、照度につきましては学校環境衛生基準によるものといようなことで記載をさせていただいております。最後4ページの方に移ってやってください。10) 情報通信網整備、校内放送設備といことで記載させていただいております。こちらの方現在の体育館において小中学生がタブレットの事業でも活用出来るような形でLAN配線をしております。現状復旧をしてくださいとい旨を1番の方に書いております。2番目の方につきましても同様にスピーカー配線が小中学校の方から来ておりますので、復旧していただくような工事をしてくださいといような旨を書いております。3番これは新規になるんですが日南町 Towns-net 網を引き込んでテレビ視聴が出来るような形で設備を、機能として持っておきたいと思っておりますので、このような書き方をしております。11) 火災報知設備につきましては法令に準拠してといような内容で書かせていただいております。12) 避難所機能という事で書いております。耐震性に優れかつ避難者が長期にわたり避難することが可能な空調設備とする事、併せて貯水槽を設置し災害時においても使用可能な状態にする事といような旨を書かせていただいております。6) その他としまして下駄箱の下足数ですとか、配管類の凍結防止策、将来の修繕が容易に出来るように十分に考慮すること、ユニバーサルデザインに考慮して設計するこ

と、利用者の安全を最優先とした施設にすること、というような計画を教育委員会の方では考えております。

○山本委員長　ただいま説明をしていただきました。まず最初に緊急防災減災事業債についての説明を受けましたが、このことについて質問ご意見がございますでしょうか。久代委員。

○久代委員　当初から県と詰めを行っていると、当初はこの起債が認められるという話だったわけですが、結果としてこういう事態になったという今教育長からの報告がありましたが、具体的に予算を執行するに当たってこの財源が明確になっていない、過疎債で全額7億2,000数百万ですかね、対応されるということだけでも。これについても近々に財源を明らかにして、直ちに臨時会を開いてその財源を補正するという措置がまず必要じゃないかなと思います。この点についてはどういう考え方ででしょうか。

○山本委員長　丸山教育長。

○丸山教育長　十分なお答えが出来ないかもしれませんが、私が知り得ておる所におきますと最初の説明の時にも不安的な要素も申し上げましたけども、ほぼ過疎対策事業債で向かえるという事は聞いております。従いまして、この事業を進めてもいいというようなことを聞いております。ただその財源が地方債、大きな国の中の地方債というところで中が変わってくるところがありますけども、その部分については議会の承認等々必要になってくると思います。総務課と財政担当あたりとも話をしております。近々に議会の承認を得ようということをお願いしております。ただ臨時的なところ等々についてはまだ詳細を聞いておりませんが、遅くとも9月の定例議会ではその組み替え名称の変更ということは示して行こうと話しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。元々の地方債というのは変わっておりません。それから過疎計画等々もあると思いますけども、冒頭のところでちょっと詳しい内容は分りませんが、過疎対策事業債でも示しておるところがありますので、色々必要などころがあると思いますけども変えていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

○山本委員長　よろしいですか。久代委員。

○久代委員　この緊急防災減災事業債は過疎債並みの交付税算入率だという当初の説明もありました。過疎債も当然過疎債が認められればそういう交付税措置になると

は思いますけども。過疎債に切り替えることによってこの社会体育館の構造設計等に大きな影響はないのか。今概ね概要説明がありました。当初いろんな減災防災事業債についての一定の制約があるということで、施設のにもそういう対応をしなければならぬという話もありましたけども、この点について大きな構造設計上の変更はないと理解してよろしいでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 今回財源が変わりましても、作る建物につきまして大きな変更はございません。当初予定していました財源、当初緊急防災対策事業債ではありましたが、同じような内容で計画しておりましたので、財源のみが振り替わって体育館そのものには何の変更もございません。

○岩本委員 大西委員。

○大西委員 当初時期的に30年度実際には31年3月末までにやらないと、ということをお聞きしておいたわけですが、それで財源が変わったという事で場合によれば当初通りであれば31年3月までに完成しなければ、それをもらえなかったということですが、今回この財源が変わることによって時期が例えばずれても大丈夫なのかどうかそれをお聞きしたいです。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 時期は今年度お借りしますので、今年度事業で繰越で来年度の3月31日でありますので、借り入れの状態を考えるとやっぱり最終的に31年3月31日は守らないといけないと考えています。

○山本委員長 よろしいですか。その他ございますか。ないようでしたら続きまして日南町体育館改築工事計画概要について説明を受けました。このことについて質問ご意見がございますでしょうか。大西委員。

○大西委員 3月議会に私一般質問したときにですね、せっかく林業の町ですからオール木造でどうでしょうかという事で、7月には近くの出雲町ですか2ヶ所の体育館オール木造のところを見に行きました。それとそれ以外にも色々調べますと結構オール木造の体育館が全国にあります。調べてみました。大きさも高さも、そういった形で本当にオール木造を検討されないのか。実は今回も町として林業成長産業化地域に決定した16地域になっております。その中でも今回水害で被害を受けた日立ですか。ここも相当大きな林業の町でございました。そこには木造で設計された体育館等々も

ございます。日南町も林業の町でございますので、その辺で再度ご検討の余地はないでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 この度計画概要の方にも示させていただきました。オール木造につきましても、予算上限までの中で必要な強度耐震性等々備えたものであるならば、オール木造というのでも検討していく余地はあるのではないかと考えております。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 具体的にオール木造を検討されましたでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 現段階におきまして、もともと鉄骨もしくはハイブリットの方を主体的に考えてきておりました。木造につきましても、設計業者決定後においても相談をしながら検討していきたいと考えております。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 まずこの計画概要という位置付け性格について伺いたいと思っておりますけれども、設計委託業者向けの概要なのでしょうか。町の方針として決められたものでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 こちらの方につきましては、設計委託の入札に当たっての概要、日南町として、現実的には指名審査会等待っておりますので、教育委員会で決定した計画概要設計者向けへの計画概要というような位置付けで教育委員会の方は考えております。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 そうしますと計画概要全体を通してかなり方向性を示されておりますけれども、先程大西委員の発言もありましたけれども構造のところでは検討する事と、業者に検討していただくと書いてあるわけですね。この辺について町の方針として木造建築でいくんだという方向を明確に示した上で、設計委託というのでも当然考えられるわけでありまして、そういう方向を望んでおるわけでありまして、この中にあります長寿命化、経済性、意匠性この点についてももう少し詳しく説明をお願いします。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 計画概要の方の2ページの(4)の方に記載させていただいております。内容につきましてなんですが、長寿命化という部分につきましては木造自体の対応年

数が工法にもよるんですが、22年程度と調べております。それについて同じような形で現在の体育館のように長い間使っていくための手段につきまして、専門的な知識を要する部分もありますので、具体的な方向等も検討していきたい、すみません、今現在具体的な方法というのはお示しすることは出来ないんですが、専門的な意見を聞きながら長寿命化対策というのを考えていきたいと思っております。経済性につきましては1番顕著なところが火災保険になってくるかと思えます。火災保険につきましてあくまで単純計算ではございますが、鉄骨造と単純な木造を比較した場合、およそ8倍火災保険が変わって参ります。そのあたりの部分の検討を火災保険を上げないための方法というのをどのようにしたらいいのかという部分、具体的には例えば壁面を鉄骨造、屋根の部分の木造ということにすることによって、若干火災保険等も減らすことが出来ます。そういうことも考えていきたいと思っております。意匠性につきましてはデザイン的な部分が多くなって参ります。内装部分木をふんだんに使うことによってPR出来るのではないかということを考えております。

○山本委員長 久代委員。

○久代委員 今2人の同僚委員がおっしゃいましたけども、同じような意見になるかと思えますが、やはり公共施設を建てる今回体育館ですけども、場合に安全性耐震性人の集う場所はまず生命をきちっと守れる場所という事がまず第1だと思いますし、体育館の場合はスポーツ機能を十分発揮出来るような施設にするということが大前提ですが、いわゆる日南町の町の基本的な施策の中で林業振興で、要するに公共施設の中でも木材を利用していこうというコンセプトがあると思うんです。これまでずっとそういう考え方に立って町も進めているいろんな施設を建てられてきたわけけども、進めて来られたと思うんですよね。この度丁度折しも森林組合や生産組合の皆さんからも陳情要望書という形で出ていますが、こういう林業団体から提出される以前にやっぱり行政としてもこういう取り組み、木材を使用する取り組みを前面に出して、町としてもこういう施策をするということで、特に林業関係者を間接的に支援していくということは非常に大事なことだと思うし、最初に述べた安全性耐震性ですよね。長寿命化という話もありましたけども、これは木造建築でも普通の一般の住宅でも木造建築でも100年200年築後を維持されている建築もあるし、こういう体育館の場合でも先に見させていただいた体育館、やっぱり建築の方法で設計のやり方で十分耐震性も維持出来るという事を現実に目の当たりにしてきました。ですから面積坪数は確かに

日南町の社体は大きいわけですが、先日見させていただいた体育館よりは。ですけどそれはやっぱりどこの設計がするにしても、十分そういう全国の施設も先例を踏まえて、設計も十分出来ると思います。従って構造から全面的な木造建築をするということを、今坪倉委員からもありました町の教育委員会としての基本方針をまとめられた概要の中に、やっぱりきちっとそういう施策そういう方針を打ち出していくべきじゃないかと私今現時点で考えているところです。いずれ財源の問題もあってきちり財源を変えるということの議会の本会議もまた開かれるでしょうけども、今時点ではやっぱりそういう方向で教育委員会として臨んでいくべきじゃないかという意見を申し上げたいと思いますが、どうでしょうか。改めてお聞きします。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 久代委員のおっしゃる通り私もそう思います。基本的には公共性のある建物、それからスポーツが教育委員会の考え方であります。その上に立ってやっぱり日南町の全体の事を考えて木造ということは当初からそういうことは考えておりましたが、考え方としてはこの議会棟も建ててありますし、本当に綺麗で気持ちのいい議場議会棟であると思います。それはちゃんと日南町の方針に基づいて立ててあるというところがあります。そこらへんは十分に理解をしておるつもりでもあります。財源が本当にふんだんにあればというところがありますけども、やっぱり町民の皆さんのお金であります。その部分において当初予算で十分にご協議をいただいた金額でありますので、その部分においての内容というところで考えて考えて色々な可能性を持ちながら今回計画を立てたところであります。全てを破棄したわけでもありませんし、それから本当に有効的なところを私たちは十分な知識がないところがあります。従いまして、これを設計に出して今日示したところの最大限のところを汲み取っていただいて、設計に入っていきたいと考えております。全く同じ方向は向いておると解釈しておりますのでよろしく願いいたします。

○山本委員長 村上委員。

○村上委員 火災保険の関係の話が出たわけですが、例えばさっき言われるように壁面を鉄骨でして上を木造にした時の保険料と、オール木造でした時の保険料の差がどれくらいあるのかという点と、木造の場合は耐用年数22年で崩れるわけではないと思いますが、例えば鉄骨で作った場合には何年なのか、鉄筋コンクリートで作った場合には何年なのか。例えば先般の行政視察に行った時にも、小松の食堂あた

りか25年に建築されて26年から使用開始だったと思うんですけども、外壁あたりが桧で作ってあって今3年程ですけども白くしゃらけてしまうという言い方が良いのかどうなのか分かりませんが、そういったような事になっておったのでそういうことからすれば、外壁あたりはやはり木を一部分は使うにしてもある程度の高さまではやっぱりコンクリートなのか、タイルを貼るのか分かりませんが、そういったような方法がいいんじゃないかと思うわけですけども、そこら辺の事はどうなのかお聞かせをいただきたいと思います。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 まず最初に火災保険の方になります。火災保険の方、構造の区分がございまして、一般木造というものと簡易防火木造、耐火構造の3種類に保険の種類が分かれております。これにつきまして、調達価格を約6億円として算定した場合の概算でございますが、木造につきましては79万8,000円、年間です。鉄骨につきましては10万8,600円でハイブリット構造につきましては、簡易防火構造という取り扱いなりまして68万4,000円の保険料がかかるようになっております。続いて耐用年数の方に移ります。耐用年数の方 RC 鉄筋コンクリート造になりますと47年、鉄骨造につきましては34年というような形で基本的な耐用年数ということです。木造の方が先程話させていただきました22年という事になります。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 ちょっと私考えるのは、もし木造ですのなら日南町沢山山があります。林業の町というぐらいですから日南町の町有林が沢山ありますし、木の年数も相当経っております。それを間伐して出してそれから製材して建てるという方法は出来ないものか。そうすると林業従事者も潤うし、それからウッドカンパニーの製材も何とかならないかという気がいたします。ただ、木造木造といってもよそから買ってきでするのなら意味がないと思います。日南材で出来るところは日南材でやっていってすればコストはどのぐらい低くなりますか、材を持ち出ししてやった場合には。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 申し訳ございません。日南町産材を間伐してどの程度コスト削減になるのかということまではきちんと調べられておりませんので、はっきりとしたお答えをすることが出来ません。申しわけございません。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 家族に乾杯ですか家を見せてもらった時に、Aさんが建てた家は20年植えた木を自分で切ってそれから乾燥させたりして、自分の山の木を使って家を建てたということがありました。そういうことで日南町は本当に木で売らなったら日南町に木がありますからね、日南町有林がありますのでそれをどんどん間伐していったらどんなもんでしょうかな。それを切ってやっていくという方法もひとつコストダウンになるんじゃないでしょうか。どんなもんでしょうか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 そのあたり農林課とよく検討させていただきたいと思います。先程おっしゃられたように日南町産材を切り出して使うことで林業町内の経済も回っていくかと思いますが、そのあたりも課を連携して検討していきたいと思います。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 構造についてですけれども、鉄骨造というところの話が前提で議論の方が教育委員会でもあったようでもありますけれども、木造建築について平成24年に木造建築を促進する、関する方針が示されております。こういうことも鑑みますとさらにはこの日南町役場庁舎、道の駅、あさひの郷、これらも木造で建てたわけでありまして。先程ありました経済性のところで火災保険料とか耐用年数の事とかありましたけれども、そもそもそういう経済性、耐用年数の事を議論するなら木造建築の促進に関する指針なんていうものは出てこないわけでありまして。日南町として林業の町として木材活用を積極的に進めよという当然経済性も耐用年数にも課題はあるけれどもそちらを進めよという事で示された方針であります。そういうことからして可能な限り木造建築を目指すべきだと思うわけでありまして、そういうことに進んでいただきたいと強く願っております。

○山本委員長 答弁はよろしいですか。願いだけでよろしいですか。丸山教育長。

○丸山教育長 資料としても出ておりますし、24年の事も承知しております。色々な考え方もあると思いますけれども、先程申し上げた通りであります。本当に思いは皆さん一緒だと思います。ただ、それをどういうふうにして有効的なみんなが思いを叶えられる建物にするかというところでありまして、その部分については専門家も含めたところでほんとに設計に入っていきたいと思っておりますので、今日の言われることについては全否定するわけではありません。それを取り入れていく方法はないかということを検討していきたいと思っておりますのでご理解いただきたいと思っております。よろ

しくお願いします。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 取り入れる方法はないか検討していくということなんですけども、すでに国内でも木造、大型木造建築もあるわけでありまして。ですから、予算の事はありますけども、本当に取り組もうと思えば町の方針として決定してその上で設計委託を出すことも可能だと思うわけなんですけども、なぜそういう考えに至らないのでしょうか。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 至ってないわけではありません。全部木でやっていくというところを示して設計に入れというような意味だと思いますけども、色々な考え方それからこれまで聞いた中で、本当にこれで大丈夫かというところは知識がないところがありますので、全面的に木造で作っていくという気持ちにはなれません。先程からも話があったように出来るだけ日南町の木を使っていきたいという気持ちはありますけども、色々な部分先程も若干話が出ておりました、やっぱりこの辺は鉄や鉄骨があった方が安全だよな、それからいいよなというようなところも私はあると思います。なので町として木造でいくという気持ちにはなれないところがありまして、本当に協議をしていきたい、気持ちを出していきたいというところがありますので、そういうところについては申しわけありませんけども、全て木造というところでは理解出来ないところがありますのでよろしくお願いします。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 木造建築として方針が決めきれないという事なんですけども、その隘路となっているのは具体的にどういう部分なんでしょうか。経済性なのか耐久性なのか、経済性の中でも色々あると思うし耐久性の中でも色々あると思うんですけども、具体的に教育委員会の中でここが耐震性とかこの部分が気になって踏み切れない決断出来ないということがあると思いますけども、その部分について説明をお願いします。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 基本的にスタートをよく知っておられると思いますけども、鉄骨、鉄筋コンクリート造りから考え方をもってきました。色々なところで話を聴く中に、その中には当然木造というところは沢山使って行こうなという話はありましたけども、それで全て木造というところはそれは先程言われた24年が生きるかどうかというところはありますけども、やっぱり経済的なところ耐久的なところ耐用年数等々いろんなと

ころを考えて、それと予算も当初はそれこそ木造にすると1.5倍、1.3倍というような話もあってお金は大切に使うていかなければならない。その頭が決まっておりますので、その部分についてこうありたいなというところがありました。ですので、この部分が一番問題ですよというところはありません。ありませんので知恵を出し合っで全体的な考え方を進めていきたいというところがありますので、このネックさえなくなれば木造だということには私は持っていないところです。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 先程これから先全て木造というのはどっちかといったら考えていないというような方向で答弁がありまして、その過程の中で今後専門家を交えて検討していきたいという事で、その専門家を交えるという事に関してはある程度は町の方向があつて、こうこうこういう形で木造はオール木は除外をして、RCとかいろんな方向性が示されて初めて専門家によって検討されるものではないかと思うわけで、そういった面でも今ここに提案されていますが、構造体の方針というのはこの専門家を交えてから決めるのではなしに、町として方向性を出してからこの専門家を招集されるわけですか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 こちらの方選択肢として今考えておりますのが、選択肢として主たるメインとなる構造については鉄骨、木造、RCそれぞれ選択肢を用意しまして設計会社が決まって建築士がおりますので、その方々と十分に協議をしてどのような形のものが出来るのかというのを検討していきたいと思っております。まず設計会社決定後という事になろうかと思えます。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 それと耐用年数が木造の場合は極端に短いわけでありまして、日進月歩技術が進んでおりまして、これは何かの算定の基準として耐用年数が22年というのが示されておるわけでありまして。これが技術の改革によって各地の施設等を調査して22年で壊れるということはまずないと思うわけで、その辺の保証というか何年ぐらいは持つという。ただこれは係数上の22年というのが出ておると思いますが、大体基本的に木造建築22年でなしに何年ぐらいは持つと思われませんか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 先程申し上げました、まず耐用年数につきましては財務省の方で示さ

れている耐用年数の方を先程申し上げさせていただきました。実際実数どれくらいもつのかという部分になると思うんですが、例えば役場の庁舎が外壁をきっちり持っていく防腐をやっていくですとか、そういうようなあらゆるランニング部分で手を施していけば少なくとも22年で全くだめになってしまうとは思っていませんが、具体的に何年という事は申しわけございませんが、分かりかねるところがあります。

○山本委員長　大西委員。

○大西委員　私はどうしても最初に戻るんですけども、日南町というのはやっぱりFSCの認証材であるとか、森林保全とかやっとなるわけですね。他の町とは違って米子市で建てるならそういう鉄筋とかいいと思うんですけども、ひとつの大きな謳い文句になると、日南町の森林ということで、その発信元が体育館オール木造でしたよというものすごい負荷価値が高いと思うんですよ。そこを言っておるわけであって、それは耐久性とかオール鉄筋が一番強いかもしれませんが、いかに木を使ってコマースベースで日南町に行けば森林保全やっています。道の駅ではCO2ゼロですよ。体育館はオール木造でやっています。こういう活動していますよというひとつにですね町の見学森林保全という意味合いで、議会も沢山の視察が来ています。今度森林の関係でどんどん来るんじゃないかと。その中のひとつの体育館ということで大きな目玉にならないかと。鉄筋立てるのは1番楽な方法です。私よく言われているのは出来ない理由よりやる方法を考えようと、どうやったら出来るのかという考え方でやらない限り、鉄筋になれば簡単です。設計してくださいとそれで終わりですけども、せっかく林業の町ですから。そこを考えていただきたいともう一度答弁よろしく願いします。

○山本委員長　丸山教育長。

○丸山教育長　先程から申し上げた通りで、向かうところ想いは一緒です。出来たら本当にどうにかして木造で出来る方法を考えてみたいと、担当者とも話をしております。ただしいろんなところでいろんなものが出てきますので、その部分について出来るだけ先程大西委員のおっしゃった通り、出来ないじゃなくて出来る方法を色々と考えていきたいと思っておりますのでよろしく願いします。

○山本委員長　古都委員。

○古都委員　先程から同じ話を聞いておるような気がするんですけども、自分出来るだけ使えるものは使ってあげて、町内の林業振興に帰すれば良いと思うわけですが、

いわゆる財源が変更になったけれども、建設目的は変わらないという説明が先程あったわけですし、災害時対応も考えておるとい話なんですが、自分議会出た時から日南町公共建築物等における木材利用促進に関する方針を今日初めてみました。これが事務方の方でこれを見ながらやっておられるという事なんだろうけども、これは陳情と言いますか要望書の添付資料で今日見せていただいたんですけど、これの1ページ目の2番、第3の2ですね。いわゆる今の教育委員会が考えておる災害時対応体育館ということがあるのであれば、この2番目は木造化になじまないまたは木造化を促進する対象としない公共物という事で、そういった災害時対応のものは木造化になじまないという事も事務方では検討しておられる。当然その上段では社会教育施設とか社会体育施設とかいうのも書いてありますけども、今回ははっきり言って通例の社会体育施設ではないという事を言われておられるので、非常にこれ読んでみるとややこしいなと思うわけです。ですから私とすれば出来るだけと教育長が言われましたけども、出来るだけを2倍ぐらいにして使えるところは木を使ってあげれば良いけども、本来の目的が損なわれるようであっては改築する意味もない、補強工事でいいという理屈になるわけですし、そういったことを大所高所検討しながら進めていただきたいと感じておるところでございます。どうでしょうか。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 ありがとうございます。結論から言うならば、そういうことだと思います。何回もすみません。同じことを言って申しわけありませんけども、本当にこの限られた中で出来るだけ木を使って日南町をアピール出来るようなものになればと思っておりますので、強くその部分について設計あたりで言っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○山本委員長 恵比奈委員。

○恵比奈委員 木造化になじまないものであっても、最後の2行で技術の革新それからコスト面の解決状況等を踏まえて、可能と判断されれば進んでいくべきだと書いてありますので、これからの技術革新にも期待するところなんですけども、ただ専門家を交えて木造にするか RC にするか鉄骨にするか協議していくんだという言い方をされましたけども、木造の建築物の設計については普通の RC や鉄骨の設計をする人とは違った、またより高度な専門的知識が必要となると思います。ですので町が本当は鉄骨でいきたいんだよという想いで設計業者を指名審査される場合と、可能な限り木造

にしていくんだ、出来れば全て木造にするんだという想いで設計業者を選定されるものとは、随分と結果も違ってくると思いますが、そこはどう考えておられますか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 おっしゃられる通りだと思います。木造に関しましては、木造の構造計算通常のものとはるかに難易度の高いものと認識しております。その旨を指名審査会にかけまして、どのような形の設計業者の選定がいいのかという事も指名審査会の中で議論して広く公募していきたいと思っております。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 先程古都委員の発言もあったわけですが、この方針平成24年に作られてその当時から農林課のホームページには掲載されておりました。承知をしておいたわけでありまして、先程の議論で災害対応という話が出ましたけども、災害時の緊急対応施設かどうかという教育長の説明では、一時施設ではないということでありました。災害が安定した後に長期間非難が必要な方々にそこを活用してもらおうという事でありまして、災害応急対応施設等ではないと理解をすることもありますし、木造であってもそれは耐震性なりその他の構造基準から言って、その施設になり得ると思っております。それと今後検討する中において色々なことがあるかもしれない。あるというふうに発言をされましたけども、それはどういう事を想定をされているのかということが思いつかれるのでしょうか。どういう想定をされているのか伺いたいと思いますし、鉄筋コンクリートなり鉄骨造、木造それぞれ検討されますけどもその結果として、どういう基準で最終判断の基準というのはどう考えておられますか。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 検討につきましては先程から話が出ておる通り、長く持つためには壁あたりの話も本当にどういう状況かうちの榎尾も申し上げた通り、これが3年5年で塗り替えをしていくと持ちますよとか言うようなこともあると思います。ただしその部分については本当にわからない。想定するちゃんとした資料もありませんし、専門家の考え方それと例えば屋根だけは木造で出来るじゃないかとかいうようなことを本当にこの構造とかいうところで、色々話を聞いて本当に沢山の木を使って出来るこんなこと言ったら悪いかもしれませんが、目標は全部木で本当に私はいいいと思っております。最終的に結果としてというところがありますけども、やっぱりこれは予算であります。予算にご承認をいただいた金額の範囲内でやっていくということを考

えておりますのでよろしくお願いいたします。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 予算を建前として言われますけども、3月時点できちんと構造等が決まっておったわけでもありませんし、具体的な今日のような計画の概要が示されたわけでもない。建築平米数等からこれぐらいの予算だという、こういう予算だという説明を受けて承認をしたわけでありまして、当然他の工事であっても工事の追加工事等も増工と言われるものも当然あるわけでありまして、29年度になってから具体的な計画設計に進みたいという話でありましたから、その時点で変われば予算も当然補正をしていくというのが行政の流れだと思いますので、予算6億3,000万があるからその範囲で納めるためというのは言い訳にならないと思います。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 本当に基本的な考え方としてスタートとしては、やっぱり皆さんに了解いただいたその予算がありますので、現在ではそういうふうに言います。ただし、今のお話を聞きながらそれから色々話を進めながら、もうちょっとこれだけ設備が必要だよと言った時に、本当に予算がありませんので出来ませんということではないと思います。本当に皆さんに審議をいただきながら増工なり増額の予算をお願いをしていくのがこれまでの通例でしたし、今後もそのようにお願いをしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 ちょっと教育長さんの答弁におきまして、選択肢としてオール木造とオール鉄骨だったり RC だったり、この選択肢はもし決めるとすればみやすいわけですけど。想いが皆さん方と一緒に出来る限り木造、木を使った施設にしたいというような答弁ですけど、その可能な限り木を使うというのはやはり個人差があるわけですし、その思い入れというのは全然違うと思うんです。そういった面でその選択肢自分達がこういう形で選択していかなければいけないわけですけど、個人差があって結果的にやむを得ないので RC を一部使うというのもあろうと思いますし、ある意味 RC を中心にして木造を張り合わせるといような、これも可能な限り木を使ったという方向性でもあるわけです。だからどうしてもオール木造とオール鉄骨、オール RC というのはみやすいです。選択するのが。ただ可能な限り木造にしたいという事が大変自分達判断が難しいわけですし、個人個人の差がものすごくある木に対する想いが、そ

の答弁に対して自分はっきりわからないわけですけど、教育長の可能の限り木造、木を使っていきたいというのはどういうことを想定した答弁なのか、もう一度伺います。

○山本委員長 丸山教育長。

○丸山教育長 またこれ言えばご指摘あるかもしれませんが、頭が決まっているところで、その中で可能な限りですので全てはたぶん無理だと今の時点では思っております。それを捨てたわけではありませんけども、その中で出来るだけ本当に出来るだけ木を使ったものに作りたいというところがありますので、それは納得はしてくださらないとは思いますが。本当に言うてはいけないかもしれませんが、金額のところでは可能な限り使っていきたいというところでもあります。よろしくお願ひします。

○山本委員長 荒木委員。

○荒木委員 構造材を木にするか鉄にするかコンクリートにするかというのが今一番のみなさんの考えておられることだと思うんです。それで実際奥出雲町の方に視察に行きましたよね、体育館2ヶ所近隣であります。近隣に作った体育館も当然27年の体育館もございました。その金額を見たらこんなもんで出来るかというような金額、実は実際私はそのように思いました。その時の説明がRC作るよりは1.3倍かかるということで、でも町長の思い入れがあって木にしたというような説明を受けました。やはりそこは今の林業これからカスケード事業とか今回指定された林業の指定になりましたね。全体を含めて日南町の基幹産業である林業でありますので、ここはやはり設計の基本的な構造やっぱり木材を中心とした体育館というのを私は進めるべきだと思います。もうひとつ細かいことですが、12番の避難所機能についてというところがございます。この中に空調設備について載っております。それから貯水槽というくだりがあります。この空調設備と貯水槽についてもう少し詳しく説明してください。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 前段の木を構造材としてという事につきましては、教育長も何度も答弁しています通り、最大限いろんな方向を考えながらやっていきたいと思っております。空調設備につきましては、現段階においての考え方なんですけど、昨年実施しました社会体育施設検討委員会の中でもスポット的なクーラーですとか、そういうのがあると良いのではないかという意見をいただいております。

その辺も踏まえまして、スポット的なクーラー要素のある空調というのを考えております。貯水槽につきましてです。貯水槽につきましては、こちら先般ありました小中学校に貯水槽がないのが今の現状になっております。改めて体育館の近隣に貯水槽を設け、トイレ機能であったり飲料水機能その辺を担保出来るような形でのものを検討していきたいと思っております。

○山本委員長 荒木委員。

○荒木委員 貯水槽というのは受水槽ですよ。ですから使用頻度によっては貯水槽の大きさも余り体育館には私は適さないと思うんですけど。要するに死に水が出来る可能性がある。これは後で検討してください。それと今クーラーはスポット的なクーラーと言われましたが、暖房は以前のようにストーブと捉えてよろしいですか。

○山本委員長 榎尾主幹。

○榎尾主幹 こちらの方も暖房の方、原則ストーブなのかなとは思っておりますが、空調設備で高効率的なものが検討出来るようであれば、検討していきたいと考えております。

○山本委員長 その他ございますか。そういたしますと様々な意見をいただきました。この会の冒頭に申し上げた通りこの中心地の特別委員会におきまして、日南町体育館の建築方法について議会としての意見を取りまとめて参りたいと思っております。その中で今出ておりましたのが、全部オール木で造ってはどうかという事と、出来る限り木を使ってはどうかという意見であったと思います。RCという意見はございませんでした。この点につきまして、この概要の1ページのところの(3)改築後の体育館についてというところの構造、鉄筋コンクリート、木造ハイブリットというようなことが書いてありますが、議会としてはこの構造の部分につきまして具体的なものを書き入れていただきたいと思っております。この点に絞りまして、委員の皆さまのご意見をお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。坪倉委員。

○坪倉委員 まずその構造的な部分について木造でいくべきだと思います。オール木造という表現の仕方が適当かどうか分かりませんが、構造部分について木造でいくべきだと。それは先程もありましたけども木材利用促進に関する指針もありますし、そういうことからすれば当然この指針を策定する時点において、経済性、耐久性については当然そこを認めた上で、でも林業の町として木造を使っていきましょうよという事に決めてあると思うわけでありますので、若干ランニングコストは高くつくかもし

れません。建築費が高くつくかもしれませんが、それはやっぱり特に建築部分については経済波及効果、町内林業に及ぼす波及効果というのも当然出てくると思いますので、主体構造について木造もちろん内装についても木造ということでいけば良いと思っております。

○山本委員長 久代委員。

○久代委員 同意見です。オール木という表現の仕方先程もあったように、例えば屋根ですよ。今いい合板もありますし、壁についても例えば今の庁舎なんかはずっと定期的に塗り替えるということもランニングコスト面であるとは思いますが、それはやっぱりある意味合板というか特製の合板が今良い、ほとんど塗り替えをしなくても良いものもあるし、それはまず主眼は構造材を木造建築にするかどうかというところで、きっちり明確にしていっての方がいいと思います。あと経費的な面は一般的に3割鉄筋に比べて高い。全国的にも試算されていてそれなりの資料もあると思いますが、やっぱり極力華美にならないような建築方法をその中に設計事務所ときちんと詰めていくという事が大事ではないかなと思います。ランニングコストの事も含めてより良い設計を進めていってほしいということでもあります。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 会議の中では出来るだけという言葉に理解がという話もありましたが、果たして建築物の構造を議会で決定するというようなことが出来る力があるのかないのか我々に。やはり先般見た2つでも体育館の大きさが違うと屋根構造なんか見ても全然違うわけですし。本町の体育館をもっと大きいということになった場合に、果たしてそういった構造材がうまく使えるのかどうなのか、やはりそれも含めてプロと話をしてもらった方がいいのではないかと。議会の想いとすれば出来るだけ木材をとというのはありますけど、現実の話それが我々に判断出来るのかと疑問に思うところでもありますし、今久代委員からも話がありましたがやはりこれまでも議会で論議したのは色々な施設を作って、指定管理に出したり或いは空いたりした時にやはりメンテナンスと言いますか、維持管理に莫大な金が日南町にかかっております。ですからそういった事も議論を検討していただきたい、執行部の方で。それと先程言いましたが恵比奈委員から技術開発というような文言が2行あるという話がありましたが、いわゆるオール木で耐火というのは現在全国16市町村に選ばれて、日南町がこれからそういった産業化事業やるんだと、その中の1台でLVLの不燃化研究やるんだというようなこ

とのお話を書いてありますが、実際耐火性というのは私一般質問で言いましたけども、いわゆる森のノーベル賞ですかセルロースナノファイバー、これが完成しておりますけど、いまだにまだ流通に出てこない。それが出来ればいわゆる鉄の5分の1の重さで5倍の強度があるんだと。発明はされておりますけどもそういったものはまだ流通していない段階で、やはり雨風に耐え、火に耐え、重さに耐えということになると非常に慎重な検討がいますと思いますので、そこまでしなくて議会の想いは当然執行部に伝えなければいけませんけども、ここで決定するというような話は委員長、私はいかがなものかと思っておりますが、どうでしょうか。

○山本委員長　　という意見がございましたが、いかがでしょうか。坪倉委員。

○坪倉委員　　これから教育委員会で検討される段階において、どの時点でどういう説明が議会として受けられるかというところが大きく関わってきますけども、主体構造について RC か鉄骨か木造かというところの部分について、この委員会として方針を決められないことはないと思いますし、早い時点でそれを決めることによって今後の事業がスムーズに行くと思います。前段でも言いましたけども、全国には大規模木造建築が沢山あります。そういったことがすでに建築基準法、耐震法に則った建築が建設されておりますので、当然そういったことは技術的に可能だと思います。

○山本委員長　　村上委員。

○村上委員　　色々議論があろうかと思っておりますけども、あその場所というものについて2,000㎡という敷地の中で、今回体育館1,100㎡ぐらいの建物が建つと思っています。それが内側の面積だと思います。そして例えば構造材を木でした時に、たぶん外側に張り出しをしていかなければいけないだろうと思っています。駐車場のスペース等々も考えた時に木造でのハイブリット方式というようなものをやはり考えるべきだろうなという。例えば下の何メートルか部分だけは RC を使いながら造って、上側の部分に木を使うというような形のものが妥当ではないかと私は考えますけども、そこら辺の事もひとつ考えて、今の段階でも駐車場が狭いという意見は非常にあるわけですので、なるべくなら駐車場スペースもしっかり取れるような方法というものを考える必要性もあるんだろうと思っていますので、そこら辺の事も考えて作っていただきたいと思っています。

○山本委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　要するに構造体をどういう形ですか、古都委員もおっしゃられまし

たけど、確かに自分達は特段な知識もあるわけではないのでこういったことを自分達で決めるのはなかなか難しいものだとして理解しております。ただ、方向性として可能な限り木造で建てたいという想いは教育長の答弁もそれに準じたものでありました。私達の想いも同じものです。そうした場合を前提としてオール木造住宅というのを建てるという前提で、それでやむなく妥協すべき点はハイブリット形式に変えていかざるを得ないのではないかとというような、自分とすればそういう考えであります。十分木造で耐え得るということなら、それは当然木造でそれは何も全ての面を要件を満たして、財政的にもそれから強度的にも構造的にもそれから利用度の恒常性からもそういった面を勘案してオール木造でやれるなら、それに越したことはないというような今日の意見に取りました。その上で強度がここをこうしたらもっと強度が出るとかそういった面を勘案して、結果としてハイブリットというような形に持っていくべきだと自分は考えております。

○山本委員長　　その他の委員の皆様はいかがでしょう。福田委員。

○福田委員　　始めの方質疑しましたけど、念を押しておきますけど、主幹は農林課と相談しながらと言いましたね。それは早くしてもらわないと材がどのぐらいあって、どれを切って出して、どういう事になるかという事をせんとこれは木で木で言うたって、全部よそから買ったって意味がないと思います私は。そういう事を考えてやっぱり日南町の町有林を伐採してやるんだという意気込みがあれば、それは木でいいと思いますけどね。

○山本委員長　　ということでございますが、町有林だけではなかなか難しいかもしれません、町産材という考え方でも、町有林で全て出来ると答えられましたかね。恵比奈委員。

○恵比奈委員　　そういうことも含めまして、やはり町の方針として木材で構造材も可能な限り木材を使用するんだという方針を出していただきますと、それに沿った高度な技術を持つ設計業者に相談出来ると思いますので、まずそのところきちんとしてもらったら良いなと思います。

○山本委員長　　古都委員。

○古都委員　　意見はさっきの通りですが、担当に伺いますがあそこでの積雪荷重はなんぼ見ておられますか。

○山本委員長　　榎尾主幹。

○榎尾主幹 おおよそなのですが、今の時点においては1.5mを考えております。

○山本委員長 その他何かございますでしょうか。そういたしますと皆様のご意見を伺った中で、議会としてこの建築につきましては構造材についても可能な限り木材を使用するものとするというような考え方でいけばと思いますが、お願いすればと思いますがいかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○山本委員長 ではそういうことで設計の方を進めていただきたいと思います。そういたしますと日南町体育館改築工事計画概要につきましては、以上をもちまして調査を終了いたします。この社会体育館についてその他何がございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○山本委員長 ないようでしたら以上をもちまして、教育課についての調査は以上で終了いたします。ここで休憩をさせていただきます。再開は45分といたします。

(休憩 10:28～10:45)

○山本委員長 会議を再開します。続きまして、道の駅にちなみ日野川の郷運営状況について調査をいたします。説明をお願いいたします。木下企画課長。

○木下企画課長 これからは道の駅にちなみ日野川の郷の29年度運営状況につきまして説明をさせていただきますと思います。具体的には担当の方から説明いたしますけれども、4月5月分の収支と言いますか運営状況の数字が確定をいたしましたので資料を持って説明をさせていただきます。なお道の駅の方の近況をお伝えしておきたいと思いますが、7月に入りましてご存知の通りヒメボタルの季節がやって参りました。その関係で今年度から観光協会の方で道の駅発ということで、シャトルバスの運行を始めております。併せまして、道の駅の方も7月1日から夜間営業ということで、ホテルのお客様の行き帰りに対応するために概ね6時から10時くらいまでの時間帯で夜間営業をしております。当初10日までという事でお知らせをしておりましたけれども、引き続き観光バス等も今週一杯入って参ります。という事で土曜日を一応予定としまして、15日土曜日まで夜間営業を継続していくという事で、こちらの方の対応を聞いておるところでございます。シャトルバスの方も昨日まで12日間の運行をしましたがけれども、延べで1,100人程の利用をいただいたという事でホテル全体も3,000人を超す昨年度を上回る観光客の方においでいただいているという状況でございます。ご報告をしておきます。そしてただいま資料も配らせていただいたところですが、29年

度予算で道の駅の裏の芝生広場に子供さんが遊べる遊具を設置する予算をいただいておりますけども、こちらの方が準備が整いまして明日13日に設置を行う予定です。14日にオープンセレモニーという形で日南保育園の子供達においでいただいて、ささやかながらオープンセレモニーを実施したいと思っています。これから夏休みに向けて子供さん連れのお客様に楽しんでいただけるような施設作りにも励んでいきたいと思っておりますのでございます。それではこれから資料に基づきまして、道の駅の運営状況につきまして説明をさせていただきます。

○山本委員長 実延専門監。

○実延専門監 それでは道の駅にちなん日野川の郷の直売所におきます、今年度4月と5月の状況についてご説明いたします。タブレットの2ページをご覧くださいと思います。まず売上でございますが、4月の売上計画税抜きで648万1,000円に對しまして、実績は427万1,000円でございます。売上総利益としましては109万9,000円、利益率で25.7%でございます。経費ですが210万の実績となりまして、営業利益は100万1,000円のマイナスでございます。それに営業外収益としまして上の委託料を足し上げました4月の経常利益は67万2,000円でございます。次に5月分でございます。5月の売上計画税抜きで704万7,000円に對しまして、実績が564万5,000円でございます。売上総利益としましては130万8,000円、利益率で23.2%でございます。経費ですが205万6,000円の実績となり、営業利益は74万8,000円のマイナスでございます。それに営業外収益としまして、町の委託料を足し上げた5月の経常利益ですが92万5,000円という結果でございます。4月5月の累計につきましては、表の一番右の欄年間計という欄をご覧くださいと思います。順次足し上げていく見方でございます。続きましてタブレット3ページをご覧ください。直売所の部門別売上一覧でございます。表示は税込みで整理をしております。4月の欄から左側が今年計画でございます。中分類と記載あるところまでが計画でございます。また、4月5月の累計につきましては、表の一番右の欄合計欄をご覧くださいと思います。続きまして、タブレット4ページをご覧くださいと思います。道の駅施設別売上客数EVI 実績一覧でございます。表示は税込みで整理をしております。直売所レストラン、トマト加工の売り上げは4月が703万6,537円、5月が890万1,748円でございます。来場者数につきましては、直売所とレストランのレジ通過者に係数をかけた数としておりますが、4月が1万1,314人、5月が1万3,883人でございます。続きまして、タブ

レット5ページをご覧いただきたいと思います。経営者会議毎月行っておるところでありますが、6月29日に開催いたしました経営者会議の資料でございます。当日ですが、これまでご説明いたしましたタブレット2ページから4ページの資料とこの今ご覧いただいております次第、それから次の6ページの資料を持って経営の振り返り、反省、それから今後のイベント等共有を行った協議を行ったところでございます。なおこの度の会議より中小企業診断士にもご参画いただき、色々ご意見賜ったところでございます。以上で説明を終わります。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 続きまして出荷者協議会の動きにつきまして、簡単にご報告申し上げます。出荷者協議会の方現在会員163名ということで、今年4月の総会時より7名の方にその後加入をいただいております。現在の動きとしましては月1回の役員会の開催を行いまして、情報共有に勤めさせていただいております。それからあと出荷者協議会の方にご協力いただきまして、山陰合同銀行さんのキャンペーンイベントでありますグリーンボックス箱数としましては20箱ということで少ない数ではありましたが、これを発送させていただき、それにご協力の方をお願いしております。それから日野高ショップというのも開催をしていただきまして、これらにつきましても道の駅の集客に協力をいただいております。今後の動きといたしましては夏冬2回に分けて、山陰合同銀行さんの行われましたグリーンボックスのような新鮮野菜の宅配というようなシステムを、関西関東の町人会の皆様にご案内申し上げて、日南町の新鮮野菜の売り込みを図っていきたくと思っております。今後の動きとしてもう1点、集荷の取り組みを検討していただいております。現在野菜等を持って出たいけれども持って出にくいというような方も居られますので、そういったような方々のニーズにお応えするような形で、品物がどうしても薄くなる午後に向けて集荷というようなことも検討していきたく。ただ現在スタッフ1人を募集中でありますけれども、残念ながらまだその採用には至っておりませんので、その採用がかなえばということにはなろうかと思っておりますけれども、そういったようなことも現在検討していただいております。以上簡単ですけれども報告を終わります。

○山本委員長 ただいま説明をしていただきました。このことについて質問ご意見ございますでしょうか。大西委員。

○大西委員 今年度は毎月実績を見させていただきということは相当進歩したと思

っておりますし、これを見てやはり施策を打てるわけですね、今後の。ここで質問ですけども、部門別売り上げの中で預り金という欄がございます。EVI やはりこれは売り上げの中に入るんですか、寄付金はこれはどうなんですか。

○山本委員長 島山主幹。

○島山主幹 売り上げからは外したもので計上しております。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 売上実績とありますが EVI が1万5,000円と1万6,000円とこれはトータル売上ではないんですか。入っていませんか。

○山本委員長 実延専門監。

○実延専門監 タブレットページのまず2ページをご覧くださいと思います。

説明を簡単に終えさせていただいたので申しわけございませんが、大きく2つ枠がございますして下の枠の大きな枠の平成29年度売上実績、黄色くマーカーをしておりますところに、税込みでカッコをしまして例えば5月のところだと609万6,000円という数字が入っているかと思います。続きまして、一方でタブレット3ページをご覧くださいまして部門別売上実績の合計欄に609万6,424円という数字を計上しております。枠を分けまして預り金 EVI としまして、直売所と施設利用分としまして1万6,995円という整理をしておるところでございます。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 前回も聞いたことあるんですけど、客数アプリを変えられたと言われましたが、これはやはりレジ通過者かける2.3はそのままでしょうか。客数アプリはどのように変えられたんでしょうか。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 今のカルネコさんと契約しております客数アプリの事については、そのあたりは今精査させていただいております。2.3という数字を基軸には置くことにはなろうかと思っておりますけれども、ただより正確なものということでそのあたりにつきましては、今協議をさせていただいております。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 ちょっと全体ですけど、4月10日付で道の駅の年間計画表出させていただきました。毎月4月から3月までこの表に対してこの表があると思っておったんですけども項目が増減しております。例えば雑費、交通整理費とかですね。要するにせつ

かく4月の頭に計画作られたものと、今出てきた決算の実績表と対比する場合にちょっと違うのでどうなのでしょう、どの表が最終的にこれでやっていくのか。大事なのはこういった計画、柱を決めたそれに対してどうなんだと、今2つあるわけです年間計画は。4月10日付でいただいています。その中のその他経費ですね。ずっと項目ありますけども、この今日もらったやつでは通信費がBで交通費がCですけどAが抜けておるんですよ。という事は計画の項目も削除されている部分もあるわけですね。確認していただけますか。

○山本委員長 島山主幹。

○島山主幹 今大西委員さんからご指摘がありました通り、4月10日の段階でお示しさせていただいたものと、今回29年度のタブレットページ2ページで作成しておりますもの、少々変えておるところがございます。例えば4月10日付で出させていただいたものAが交通整理ということになっておりましたけども、人件費をAの方に振り替えをさせていただいております。その他は基本的にはほぼ同じ内容となっております。また計画時の金額もそのままということで計上しております。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 私が言いたいのは、4月の計画出ました、5月の計画ありました。そうすれば実績を横に出した方が見やすいんですよ。だから前年比なんぼか前月比なんぼかそこまで言いませんけども、前年の4月5月の実績と計画ですね。それに対比していかないとまず実績をきちっと把握して、来月再来月どう手を打つのかと。何が増減があったのかどうかとかですね、この指標というものは、そのためにあるわけで結果を見るのは一緒じゃなくて、次の手を打つための経費なんです。過去のデータを見ながら本当に皆さんが見やすいかどうか。見やすい資料にしないとただ単に報告するための決算表だけの資料であってはいけない。これを活用するための資料にさせていただきたいので、今単純に4月5月の実績を見ますと、計画が販売計画1,500万に対して1,070万円ですよとなれば71%なんですね。ここがポイントなんですよ。29%売上減ですよ。ただし、売り上げ総利益率は25%23%これは良いわけですよ。なぜ売上げというところ、それから経費の事経費の中身見ていきますと相当経費使っておられません。昨年比べて。そこがポイントなんですよ。こうやって本当に絞った経費にしているのか。それともへんな言い方しますと何かのものはどこかが処理したと、言い方が悪いですけども。町の方でこれは見たよとなってしまうと正しい経理を見ないと

いけないので、この分は町がみたよとか。ビックリするのはイベントの費用が大変少ないです。本当にそうだったのかとかね、報告が8,000円、9,000円1ヶ月で。前年に比べて少ないわけですね。それは町が何かを一緒にしてしまっていてやっているのか、道の駅だけです、レストランと。その辺はやっぱり比較対照きちっとしとかなないと判断を誤る場合があるわけですね。だから前の4月10日に出されたやつをここに横に出された方が、半年で見るのもひとつの手です。これ上期下期でみられていますけども。これを6ヶ月を2ヶ月で見たらまた計算をし直さないといけないわけですね。単年度なら単年度、毎月の決算というのはそうやって見ながら2ヶ月3ヶ月先を見るわけですけども。横軸が広がったら大変見にくいと思いますけども、不要なところは、非表示にして消しておけば良いわけですよ。パソコン上で必要なところは前の2行とか3行ですから。そういう形に今後されたらどうでしょうかと。それでないとなりに見やすくないと思いますよ。それはどうでしょう。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 ご指摘の通り昨年対比でありますとか、計画対比、見易い表ということは検討してみたいと思っております。実際この表を見ながら昨年度との比較であるとか計画等の達成率でありますとか、そういったところはまた別作業で委託業者さんとは突き合わせをしておるところでございます。ご指摘があった通り4月5月の傾向としては、売上自体は昨年オープンそれからゴールデンウィークでかなりの売上げが上がっておりますものに比較しますと、やはり今年は若干定常のスタートになっておると思っておりますが、逆に利益率の方が確保出来ておりまして目標に対してほぼ計画通りの売上利益が確保出来ているというところは分析をしておるところでございます。経費につきましてもご指摘の通りいわゆる節約、売上と様子を見ながら節約をしっかりとさせていただいておるところ、それとご指摘のありましたイベントであります広告費の部分につきましては、ご存知の通り4月にはオープン記念ということで、食のバザールを併せて行っております。また6月にも食のバザールを道の駅で行っております。そのあたりで広域に撒くチラシあたりをバザールの方でみさせていただいて、道の駅のイベント等も併せて広く周知をさせていただくような町としての支援というつもりでの取り組みを行った結果かなと今現在は考えております。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 経営者会議にメンバー見ますとこの中にはカルネコさんが入ってい

ませんね。カルネコさんは何回か要請したら来るのか、予算上のときには年何回来るということになっていましたけども、いろんな助言とか提言をされるという項目になっていますが、その辺はどうでしょうか。次回7月に来られるのでしょうか。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 まずカルネコさんにつきましては年4回おいでいただくようお願いしております。ただ時期については契約の中に謳っておりませんので、今後状況によっては経営者会議にもご参画いただこうと思っております。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 先程農林課長の方から説明があったんですが、企画課長に聞いた方がいいのか分かりません。生鮮品の集配絡みの集める方ですね、今模索しておるという話がありましたけど、私の記憶では農業研修生の扱い農林課から企画課に行った段階でそういう仕事をするんだと、2人ですね。男子1人女子1人がステップアップという名前で行かれたと。それが、未だに確立されてないというお話のようでございますけども、そこら辺の事情について説明をいただきたいと思います。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 農林産物販売支援員という形で28年度地域おこし協力隊の2人を道の駅に常駐していただいて活動していただいております。当初は農家周りでありますと、集荷というところも視野に入れての活動を想定しておりましたけども、特に集荷につきましてはなかなか体制づくりが委託業者の体制も含めて、出来上がらなかったというのが現状でございます。改めまして29年度出荷者協議会を中心に集荷の仕組み作りを考えていただけておると考えておりますので、そちらの方の体制づくりも進んでいくものと思っております。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 出来なかったという結論ですが、あの2人はいったい1年間何をしておられたのか疑問に思うところでありまして、それ以外の案件でも町から金が出ておる方が明確な場所で働いていないというような話も聞くわけですし、いわゆる人員管理そのあたりについてどのようにお考えか重ねて伺います。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 販売支援員につきましては、28年度オープン当初からいわゆるイベント企画の部分にかなりの部分で携わっていただいておりますし、もう一方加工実

習室の利活用を進めるために、加工品に取り組んでいただいている出荷者協議会の食品加工部門の方と協力しながら、実習室での加工の進捗を図ったということで、そちらの方では力を発揮していただいていると考えております。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 ありがとうございます。しかしながら元々の目的がその2人については加工の方ではなくて、あの施設での目玉商品、生鮮品の生産販売、集荷このあたりに振り向けた人材だったと私は認識しておりまして、イベントや加工の方は2番目3番目のあの人たちの舞台だろうと私は認識しておったんですが、企画課の方ではそこから辺の認識はどうだったかお聞かせ願いたいと思います。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 道の駅の施設の中に入って委託業者の方と共に動いておるわけございまして、とても2人で出荷体制を構築するということはなかなか難しい部分があったと思います。そういった意味で29年度再度仕切り直しをして委託業者の方を、それと出荷者協議会の方を中心に新たな出荷体制というところに取り組んでいただきたいと思っているところであります。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 今回の木下課長が申し上げましたように、仕切り直しとは否めないと思います。従いまして現在 MA サービスさんの方ではそういったような人員1人確保したいという形で動いてはもらっておりますけども、ただ何とかその野菜を確保という事がありますので、現在はその出荷者協議会の役員を中心に集荷する体制も考えてみれないだろうかということも、投げかけをさせていただいております。従って、MA サービスの方でその体制が組めない場合には、日当等の負担をいただきながら MA サービスさんから出荷社協での集荷システムというの併せて検討していきたいと思っています。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 仕切り直しというのはいることだとは思いますが、しかしながらこれまで逆に食の安全トレーサビリティを担当しますよという方が、この方も居られなくなったという事で、非常にそういう面では計画性が甘いのではないかなと言わざるを得ない。そういった集荷の問題、或いは生産指導、安全確認またそこに人材が必要になってくる。ですから育たないという人回しになっておりますので、その後任をど

なたにさせるのか。今あるのかないのか分かりませんが、やはりある程度の年限を見越して人を使って行かないと毎年仕切り直しになっておる。どの部門も仕切り直しになったということではなかなか人材が育たないというような気がしてまいりますので、今後は是非そういったことも思いの片隅においていただいで運営指導をしていただけたらなと思うところであります。

○山本委員長 久代委員。

○久代委員 今年から道の駅に観光協会の職員が張り付いて、独立を目指すという事で始まったわけだけども、実際には3ヶ月経っているわけですが、この活動について現時点でどのように把握しておられるのかこの点をちょっとお聞きしておきたいと思います。それと日南の観光ウェブサイトの製作の委託費、これも当初予算の審議の中であったわけですが、どのように進んでいるのかということも併せてお聞きしたいと思います。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 観光協会4月に道の駅の方に拠点を移しまして、おっしゃる通り3ヶ月になるところでございます。拠点を移した後もなかなか拠点の場所に常駐が出来ていないというお声も伺っておるところでございますが、今年度観光協会体制の強化をいたしましたけども、いろんな面で飛躍をしていきたいという想いで、ご存知の通りホテルのシャトルバス、先程話しをしましたホテルに観光協会が関わる事それから阿毘縁の旧家の活用であるとか、そういったもろもろ多方面での新たな動きに今業界として対応をしております。3人という実際2.5人という陣容でこの業務を行っていくというのは大変な部分も確かに感じておりますけども、何とかやはりステップアップの年として頑張っ、企画課の方もフォローしながらステップアップをしていきたいと感じておるところです。今現在は日々あちこちに飛び回っていらっしやっ、拠点を空けることも多いかとは思いますが、各地でそれぞれの取り組みを頑張っ、いただいでおるところでございます。それと観光ウェブ施策につきましては、当初予算いただいでおります。今現在課内でのウェブの内容構築であるとか、資料集めをしておるところでありまして、発注はこの夏にはかけたいと思っております。年度いっぱいかけてしっかりしたものを3月中には作って、新年度から新たなウェブページでスタートをしていくということで、今年大きな動きもあっておりますのでそういったことも含めまして、新たなウェブページの構築を同時に行っていきたいと考えてお

ります。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 ちょっとお尋ねしますが、この人件費がありますね。2ページに人件費 A1、A2、A3とありますがこの人件費の直売所の給与というのは何人ですか。これは。

○山本委員長 島山主幹。

○島山主幹 駅長代行と職員1人分の2人分を計上しております。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 駅長代行というのは給料は町が出すことないでしょ。駅長は日南町が出すことになっているけど、駅長代行というのはないよ、ひとつもその給料にあてはまるところが。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 委託料でみるべき給与の範囲というお話であると思います。予算の中では駅長及び事務員とトレーサビリティの職員ということで、委託料人件費の予算をいただいておりますけども、今現在の考え方としましては駅長が不在となった今、代行ということで勤めていただいております方の人件費を委託料でみさせていただければと考えているところでございます。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 それはおかしいじゃないかな。議会にかけて人件費のものについては決めたでしょう。事務員と駅長という話になっているでしょ。いつからそんな駅長代行まで給与出すようになったかな、町から。それはおかしいじゃないかな。これ質疑したでしょうが、その時にはあくまでも駅長代行ですということで。駅長じゃありませんと言ったら、はいと言いましたが。なんで駅長の給料を代行に出さないといけんかな。課長は休んだ時に課長代理に出すのか。おかしいじゃないかそれは。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 駅長になり変わって駅長の仕事をしていただいているということで、駅長というふうな、駅長の委託料部分というふうにならば今現在は担当課としては考えておるところでございます。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 駅長分だということですがね、議会にかけんでもいいだ。その給与

については人件費については。議会にかかって議決したものが駅長の給料ということ  
で出したでしょう人件費を。何で駅長代行に出すんですかな。おかしいじゃないかな  
それは。だから駅長というのを早く作らないといけんじゃないか言ったでしょう私。  
戻してもらいたい。

○山本委員長 実延専門監。

○実延専門監 現状として MA サービスさんにはこのあたりの考え方について、改  
めて駅長代行とはどういうことですかというのは再三町としましても我々としまして  
も確認をした経過がございます。その中であくまでも駅長代行という肩書きを持って、  
実際にこれまでの駅長の業務を継承して行っていくと。その駅長という部分について  
は、経験年数というのが社内でもひとつ議論の焦点となったというところで、今しば  
らくはその肩書きでご了承いただきたいという報告を受けております。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 給与については駅長に給与を出す。駅長代行の給与じゃない。それは  
会社の勝手ですけんね。代行にするか駅長にするか。それは議会にかけんこうに勝手  
に予算あるからこっちに回す、出来るもんですかそれは。おかしいじゃないかそれは。

○山本委員長 久代委員。

○久代委員 ちょっと今同僚委員が色々言われますけども、実際この議場に来られ  
てその駅長代行になられた方が、実質今実延専門監がおっしゃったような職務の内容  
をやるということを全議員にご挨拶もされた経過もあって、当然名前は事例上は確か  
に駅長代行という事例だけでも、実質的には駅長の職務をするということで私は当初  
予算は通っていると理解していますけども。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 それは違いますよ。駅長代行で挨拶したでしょ。駅長じゃないでしょ  
う。町から人件費出すのは駅長として出すんですよ。全然元が違うがな関係が。挨拶  
されて駅長代行で駅長の仕事をしますよという事で、給与出してもいいもんかそれは。  
おかしいじゃないかな。認めてないよまだここは。給与については全然認めてないよ。  
それは駅長代行で出すという事は。

○山本委員長 議員間討議のようになりましたが、その他皆さんはどのようにお考  
えでしょうか。恵比奈委員。

○恵比奈委員 名前は駅長代行であっても実際にやられている仕事の内容が駅長と

しての仕事をやられているということでありまして、それから駅長がいらっしゃって駅長代行がいらっしゃって、2人分の人件費を見るというのなら問題があるでしょうが、あくまでも1人ですので駅長の仕事をしておられる方という事ですので、何ら問題はないと思いますが。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 何だ問題ないことないでしょう、これは。議決して駅長の給料を出しますでしょう。代わりに仕事するからといって出して良いことないでしょ。これは。どうですか。これから給料出すにあたっては誰でもいいですよということになるでしょう。それはおかしいじゃないかなちょっと。

○山本委員長 私の理解は代行というのは一時的なもので、何ヶ月かすると駅長さんになられると理解をしておったんですが、まだ未だに代行という肩書きでやっておられるわけですね。何ヶ月したらまた駅長になられるとかいうお話はないわけですか。木下企画課長。

○木下企画課長 会社の事情というところもあるかと思いますが、こちらとしてもどういう扱いなのかということは確認をさせていただかなければいけませんので、確認をしておりますけども先程専門監が申し上げましたように、経験年数が浅いという事でいきなり駅長ということには会社としてはなりづらいということで、時期をみてということ、具体的な時期は聞いておらないところでございますけども、いずれというお気持ちであるということとは会社の上の方からはお話を伺っているところでございます。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 それは駅長になって初めて駅長で報酬を出すでしょう、町から。予算を組んで出すでしょう。駅長の名前で。まだ未熟だからまだまだ駅長にならないから見習いだからということだったら、駅長の給与を出すことない。それはおかしいじゃないかな。今度監査員に言ってチェックしてもらおう。

○山本委員長 福田委員のおっしゃるのは、例えば課長さんと課長補佐とで給料が違うんじゃないかというような意味合いだと理解をいたします。それで予算と同額の給与と言いますか、報酬を出されるというのはいかがなものかという意見だと理解をいたします。その点について執行部の方のお考えをお聞きしたいと思います。木下企画課長。

○木下企画課長 駅長代行につきましては、駅長並みの給与が出ているという理解ではございません。代行になられる前に働いていらっしゃった時期から若干は変わっているのかもしれませんが、駅長並みという給与ではないと聞いていますし、当然委託料として見させていただく部分も実際払われた代行の給与という考え方でおります。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 今の説明を聞くと、町の委託金が逆に年度末には余って帰ってくる可能性があるという意味でしょうか。

○山本委員長 木下企画課長。

○木下企画課長 駅長さんの人件費部分の金額というのは、今現在では下がっていると理解をしています。

○山本委員長 という説明でございます。その他でございますでしょうか。ありませんか。そうしますと道の駅直売所につきまして、その他全体を通して何か質問ご意見ございますでしょうか。坪倉委員。

○坪倉委員 聞けばよかったですけども、直売所でいわゆる日南町の主要4品目について農協から仕入れて販売をするということなんですけども、この取り組みについて農協と協議が整って農協から供給を受けるということにスムーズに受け入れる体制になっているのでしょうか。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 スムーズかと言えば若干問題は正直ございます。ただ農協から仕入れをさせていただくというのは昨年から合意しております。若干タイムラグがどうしても生じますので、在庫が切れた時に去年あたりもトマトがなくて販売出来なかったというような事実がございます。そのあたりにつきましては、先を先をみながら仕入れをとる事は MA サービスさんの方には申し上げておるところでして、そのあたり仕入れのタイミングさえ間違わなければ、スムーズに店頭には並ぶものと理解しております。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 その仕入れのタイミングが非常に一つは重要だと思います。棚にトマトがないということがないような仕入れをお願いしたいと思いますし、もう一つは日南トマトとその他のトマトについて、出荷者さんが持ってこられるトマトは日南町ト

マトなんですけども、農協から入れるいわゆる日南トマト地域団体商標持っておる日南トマトというのはやっぱり物が違うと思うんですよね。そういったところでいつでも日南トマトがある状況というのが作り出せないでしょうか。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 ご指摘の点は最もだと思います。日南トマトという形で店頭に並べておるものと、日南町産トマトでどこがどっちなのかというのがありますけども、そういった形で区分はさせていただいております。従って日南トマト系統で出荷されたものが常に並ぶというようなことが去年は残念ながら出来ておりませんで、そのあたりにつきましてはこれから出荷時期を迎えて参りますので、MA サービスさんの方と十分に協議を重ねて参りたいと思います。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 関連しまして、昨年も自分発言させてもらったんですけども、集荷場に集まるトマトの熟度が非常に浅いものでありまして、そこから持って来てもいわゆる一般生産者が持ち込んだトマトの色とは全然違うということがありますし、昨年現実的に日南トマトで今多いですが宗像へんにある大きなスーパーさんあたりはですね、同じ箱で800円農協から来るものは2,200円とそれじゃ売れるわけがないので、先程同僚委員が発言されましたけど仕入れのタイミングというのは、本当に現実的に出来るのかと。たまたま仕入れても贈答用ということであればいいのかも分かりませんが、仕入れても熟度が違う単価が違う当然ここに来るまでにもっと安いものが売ってあるという現実、ここ3、4日私も見ましたけども今年なんかもっとその差がひどいので、今宗像の大きなスーパーさんは20個入りですね、岐阜県のものでしたけども300円切っておると。皆が箱買いをすると。昨日私横田の方にも行って見たんですけども、これも600円を切っておると。20玉入りくらいでしたか県によって若干基準は違いますけども。そういうような今年も夏野菜の状況で今のシステムが本当に運用可能なのかと非常に疑問に思っていますが、そこら辺の認識をお聞かせいただきたいと思います。

○山本委員長 久城農林課長。

○久城農林課長 まさにおっしゃる通りの事は、去年は自分は消費者の立場でしたので感じておりました。担当課長になりまして、そのあたりをどのようにして解決していくべきかなとちょっと悩んでおるところではあります。おっしゃる通り例えば米子のあたりのスーパーが日南トマトを仕入れた値段より、目玉商品にするために赤字

覚悟で安く売るそういったようなケースも当然あるかと思しますので、米子方面から来られた方々が日南町に行ったらトマトが高かったというような声も直接お聞きしたりもしておりました。そのあたりが今の販売システムに問題があるということは認識しておりますけども、かといって仕入値段を下げてくださいというようなこともなかなか交渉としては難しい。従って日南町産トマトに系統出荷をしていない方にも頑張って出していただいて、そのあたりについてまず日南町のトマトがおいしいということは頑張ってもらうしかまずはない。ただ後は今の農協から仕入れるものについては、帰省された方等々が買っていただくときに、それが切れないように並ぶことはまず心がけたいと思いますし、今ご指摘のあった点につきましてはもう少しJAさんとも話をさせていただきたいと思います。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 是非そこを詰めていただきたいと思います。系統出荷のものについては仕切り値というのも持っておりますし、高い安いがありますしその3日間とかの平均で生産されるということになっていきますので、需要単価の商品なんですよ。それを同日に捌くという事は単価差が必ずあると思うので、農協さんの方が実勢単価で卸してやるということで、どこかの店と同額というような話が出来れば、即応出来ると思いますけども、そこら辺是非農協と話をしてですねお客さんに喜んでもらえるよう、その中にはひとつには農協のグリーンでの販売という単価がありますので、そこらへんとの調整も取られないとなかなか農協も同じ時期に売っておる贈答ですね、そういうようなこともあるので、そこらへんよく農協と話してお客さんに喜んでもらえるようなスタイルを作っていただきたいと思います。要望しておきます。

○山本委員長 その他ございますか。ないようでしたら本日の委員会は以上で終了いたします。閉会といたします。お疲れ様でした。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

委員長

副委員長